

こんにちは 議会です

 紀の川市議会だより No.22
平成24年 [2012] 8月1日発行



満田慧峰さん作「龍門山」(龍門山縁起絵巻より)

- 定例会報告……………P2
- 市政を問う(一般質問)……………P4
- 委員会報告……………P10
- 【特集】満田慧峰さんインタビュー……………P14

平成24年第2回定例会

平成24年第2回定例会は、6月1日から6月28日までの28日間の会期で開かれました。本定例会には、12件の議案が提出され慎重に審議した結果、すべて原案のとおり同意・承認・可決しました。

また、一般質問では、9名の議員が登壇し当面の行政課題を質しました。

主な議決事項

・紀の川市新庁舎建設工事 請負契約の一部変更契約の締結

本庁舎東側駐車場に建設予定の書庫・屋外倉庫の増設工事と、本庁舎の自動制御設備の追加工事などにより3億450万円増額するための変更契約について議決しました。

- ・専決処分の承認（4件：紀の川市税条例の一部改正、紀の川市都市計画税条例の一部改正、紀の川市国民健康保険税条例の一部改正、平成23年度紀の川市一般会計補正予算（第6号））
- ・那賀消防組合規約の変更に関する協議
- ・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約の変更に関する協議

平成24年度 一般会計補正予算（第1号）

補正予算の総額は、7千20万4千円でした。実施する事業の主なものは次のとおりです。

食育推進事業

【20万円】

紀の川市の農産物を消費者に知ってもらうため「野菜でげんき・和歌山」応援隊が主催する「野菜フェスタin Wakayama 2012」に参加し、幅広いPR活動を行います。



農業経営基盤強化促進対策事業

【103万3千円】

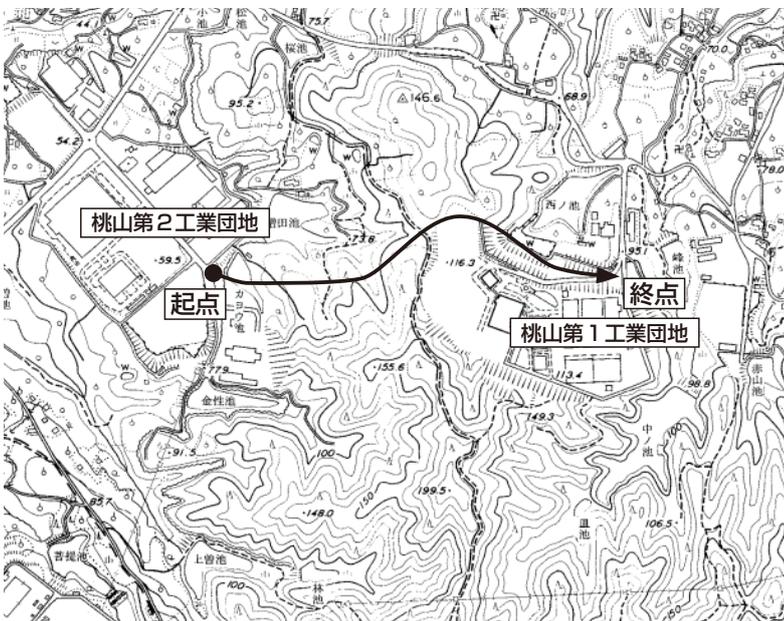
農業の担い手不足、後継者不足また耕作放棄地の解消を目的とした国の新しい施策である新規就農対策を推進するためのプランを策定します。



紀の川市道路線の認定

調月三和線（桃山町調月・最上）

新設計画の道路を市道として認定しました。



財産の取得

・行政ネットワーク基本システム構築機器

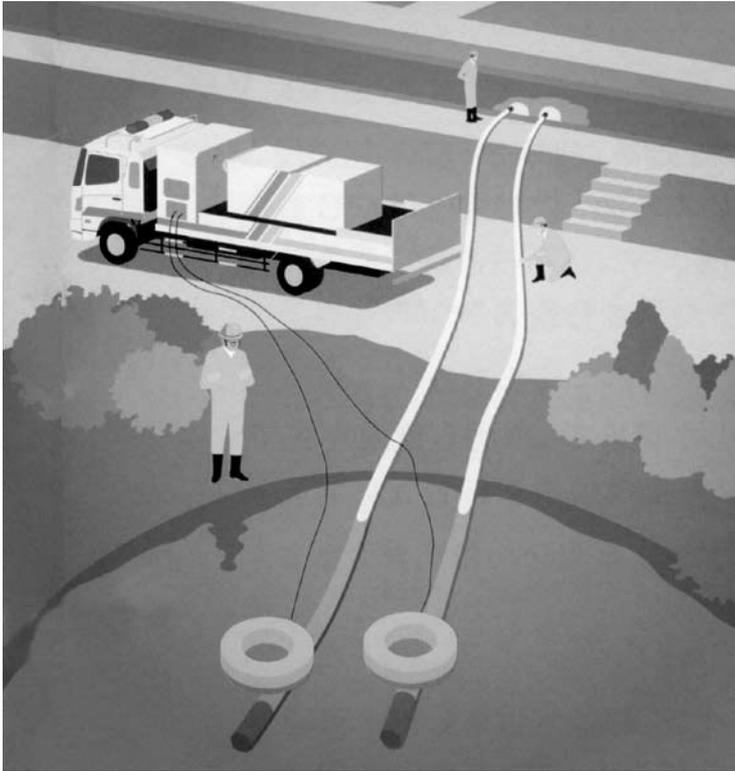
【1億2千600万円】

本庁及び出先機関のネットワークを構成する機器類やソフトウェアを更新します。

・排水ポンプ車

災害時の湛水被害から農用地、農業施設の被害軽減をはかるため排水ポンプ車(20³m³/min・1台、10³m³/min・1台 計2台)を購入します。

【7千276万5千円】



現行保育制度の拡充を求める意見書 全会一致で可決

請願の審議

平成24年3月議会で継続審査となっていた「請願第2号 子ども・子育て新システム導入に反対し、現行保育制度の拡充を求める意見書提出を求める請願書」について再度審議を行いました。
その結果、現行保育制度の拡充を求める部分を採択とする一部採択となりました。

意見書提出

現行保育制度の拡充を求める意見書

(要旨)

子どもの福祉を守り、保護者が安心して子どもを預けられるよう、拙速な保育制度改変より現行保育制度の拡充を強く求める。

(要望事項)

- 1 児童福祉法第24条に基づく現行保育制度を堅持・拡充すること。
- 2 今日までの保育制度が果たしてきた役割を踏まえ、実施責任を持つ現場の自治体及び保育団体との意見交換を十分行なうこと。
- 3 子どもの福祉の後退を招く保育所最低基準の見直しは行なわず、抜本的に改善すること。
- 4 保育所、子育て支援施策関連予算を大幅に増額すること。

(提出先)

内閣総理大臣をはじめ関係省庁の大臣
(平成24年6月28日提出)

いっぱん質問

市政を問う

阪中 晃 議員

- 長期総合計画の後期基本計画について
- 学力向上の為の小中学校の施策について

寺西 健次 議員

- 通学路の安全と学校施設の改善について
- 下水施設の普及状況について

井沼 武彦 議員

- 市のスポーツ施設について

川原 一泰 議員

- 空家対策について

吉田隆三郎 議員

- 住宅火災警報器の設置について
- 紀の川市人事評価制度について
- 公共施設の施設管理人雇用・委託について

田代 範義 議員

- 小中学校耐震化について
- 特定検診について

石井 仁 議員

- 脱原発・節電対策について

岡田 勉 議員

- 聴覚障がい者に対する支援について

坂本 康隆 議員

- 通学時の安全対策について

一般質問の内容については、要旨のみ掲載しています。

なお、原稿については、各質問者が投稿したものであり文責は質問者にあります。

くわしい内容を知りたい方は、会議録の閲覧ができますので市議会事務局議事調査課までお問い合わせください。(TEL 0736-77-0892)

持ち場の 目標設定

問 学力向上に対する、教育委員会の考えと施策は。

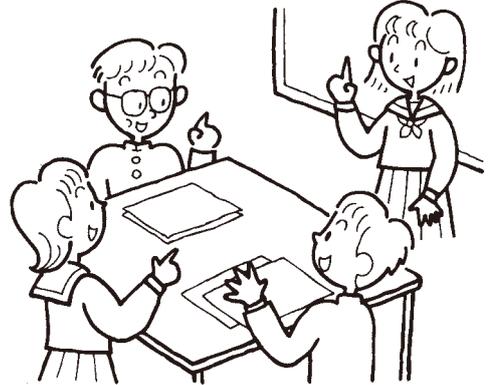
答 教育長 教育委員会では、「一校一挑戦」〜改革から挑戦へ〜を大きなテーマに掲げている。

学校の課題を明らかにした上で、めざすべき目標を設定し、学校全体として、組織的・具体的にどのように取組みを進めていくのかという共通理解をもち、すべての教職員が一人一挑戦を進める気概をもって教育に携わっている。

各学校の伝統を継承しつつ、今まで何もなかった「無」から新たな校風や学校文化、学校教育実



阪中 晃 議員



践の「有」への創造を目指し、それぞれの学校の特色を生かしながら、取り組んでいる。

本年度は「紀産紀育」を市教育のテーマに設定し、保幼小連携を推進するための連絡協議会を立ち上げ、PTA組織とも連携を図りながら、子ども達の学びと育ちを円滑につなげる取組みを積極的に進めている。

一方教師は、各教科の指導に関する研究はもとより、本年度は、教師の視野を広め柔軟な思考ができるように、地域の人材を活用した5回の講座

を計画している。また、子ども達の学力向上には、

家庭学習は欠かすことのできないものだと考えており、家庭での学習「家学」をすすめるため、すでに小中学校の児童生徒の家庭にパンフレットを配布した。

このように学校、教師が学びを造り、家庭や地域が学びを支え、子ども達が主体的な学びを展開する取組を進めている。

教育委員会の発信

問 教育委員会の考えを記者発表や広報に掲載することにより、広く市民に知ってもらっては。

答 教育長

あらゆる機会を通じて、教育委員会の考え、活動を発信していきたい。

通学路の安全対策は

取り組みは。

問 教育部長

4月に通学路に関する実態調査を実施した。危険箇所80箇所については、現地調査を行っている。

信号機、横断歩道、防護柵等、要望が必要な箇所については、警察等関係機関と協議しながら対応している。

問 通学路の安全対策とし

て、優先的に道路整備や工事が実施されているか。

答 建設部長

通学路の安全性向上のための工事は優先すべき事だと考え実施している。

問

京都府の事故現場は、幹線道路が信号等で渋滞するために迂回路として車の「抜け道」になってきたようで、本市内でも「市道粉河東野線」が同様で危険であり、その安全対策は。

答 建設部長

地域住民の理解を得て時間帯を定めた通行規制や、通学路の看板の設置など、他の部とも協議しながら検討する。

洋式トイレの 増設を

問

合併浄化槽、公共下水道事業の普及により、トイレの水洗化が進み、洋式トイレで育った新入学児童が増加していると聞く。

学校での洋式トイレの実状と増設の考え方は。

答 市長・教育長

洋式トイレの設置率は、小学校で24.1%、中学校で20.7%となっている。

今後は、学校長からの要望を踏まえ、増設を行っていききたい。



寺西 健次 議員



横断歩道を渡る子ども達



井沼 武彦 議員

大水に強いグラウンドを

問 市内の河川敷グラウンドの利用状況は。

答 教育部長
合併時より旧5町の施設を引き継ぎ、市民のスポーツ振興と住民の健康づくりに活用している。

利用者は、平成20年度で7万4千人、21年度で8万5千人、22年度9万人と増加していたが、災害のあった23年度は、災害復旧により利用できなかったため6万9千人となった。

問 河川敷のグラウンドは、増水により大きな被害がでている。今迄にかかった復旧費は。

答 教育部長
台風・集中豪雨により合併迄に約1億100万円、合併後は5千万円の復旧工事費を投じている。

問 国民体育大会でソフトボール競技会場となる粉河運動場の復旧状況は。

答 市長
紀の川と中津川の合流地点が大きく浸食されていた。原形復旧してくれらるか心配していたが国会議員や国土交通省に強く要望した結果、堤防の原形復旧工事は行われている。完成後、グラウンドの復旧工事に取り組みたい。

問 今後、水害の心配のない施設をどのように考えているのか。また、ため池をグラウンドに転用した利用ができないか。

答 市長
河川敷のグラウンドは、台風・集中豪雨等で災害復旧には多額の予算を費やしている。

安全な場所への施設の設置は十分認識しており、ため池をグラウンドに転用できないかなど水利権者や地域の皆様と相談していく。



流失した桃山グラウンド (昨年9月)



川原 一泰 議員

どうするんよ 空家対策

問

市内の農村地帯の空家対策については、農林商工部で取り組んでいるが、住宅密集地の空家については、取り組まれていない。町中の空家は、街の活性化の阻害要因になり、人口減少の原因にもなっている。

全国から情報収集をし、市独自の対策を講じては。

答 建設部長

全国統計によれば平成15年から平成20年の5年間で97万戸増えている。空家率は13.1%で過去最高となっており、全国的な問題になっている。

空家は、治安や環境の悪化、資産価値の下落など街の活性化を阻害する要因になっている。

県は、全国に先駆けて平成24年1月に景観支障防止条例を施行した。この条例は、建築物等の維持保全や建築物の状態規制等、生活環境が阻害される事を防止する為の指導、勧告、命令又行政代執行まで含んでいる。現在、県では、この条例と建築基準法第10条による指導を行っている。



主が居なくなった家

いつ起こるかかわからない災害により、家屋の倒壊等による避難経路の確保や景観の悪化防止等に向けて町内会や区長の協力を得ながらこの問題に取り組んでいきたいと思っている。

全国各自治体のこの問題に対する取り組みと対策の中身について、情報収集を行い、市の実態調

答 市長

この問題は切実な問題であり、非常に難しい問題である。

土地・建物の所有者が違ふという問題等もあり、時間をかけて、市の実態を十分調査をし、市独自の対策を打ち出すべく努力をしていく。



吉田隆三郎 議員

住警器を 取り付けよう

問

住宅用火災警報器は、消防法で全ての住宅に設置が義務付けられた。

市は、住警器を全世帯に無償配布を行ったが、漏れなく配られたのか。

また、受取った家庭で設置していない所があり税金が活かされていないと話があった。

設置状況の調査や指導未設置世帯の対策はどうしていくのか。

答

総務部長

住警器は、市内のほとんどの世帯に配布している。設置状況の調査は行っていないが、未設置のところもあると思われるので、早急に設置していただくように、広報により啓発を行なっていく。



住宅火災の見張り番

年功・経験よりも成果か

問

職員の昇格・昇給は、今後、能力と成果を重視した成績主義で評価を行い、評価結果を人事処遇に反映させる方針だ。この「成果主義賃金制度」は問題も多く、導入企業も少なくなっている。

答

総務部長

成果だけでなく、能力、勤勉性とプロセスを重視した制度に見直してはどうか。

答

副市長

学歴、経験重視から意識改革をはかり、専門的な能力を有した職員の養成をはかり、職階に応じた能力を身に付ける必要から、評価結果で職員の適正を見極め、組織力の強化へつなげていきたい。

・成果の判定が困難
・評価者により、評価のばらつきがある。
・部門間の業績の違いで、評価に差がある。
・評価者に恣意的な査定がある。

非構造部材の 耐震化は

問

校舎の耐震化を進めているが、あわせて非構造部材の耐震化も進めるべきでは。

答

市長・教育部長

校舎の耐震化は、平成27年度末の完成を目標に取り組んでいる。

今後、非構造部材の耐震化についてもしなければと思っているところであり、調査をし、進めていきたい。

問

災害時の避難場所に指定している小中学校体育館への備蓄場所の進捗は。

答

総務部長

学校施設24ヶ所のうち施設内に備蓄倉庫を設置



田代 範義 議員

している所は7ヶ所、隣接する施設が9ヶ所あり、残りの8ヶ所は近隣の公共施設から物品を搬送する。

備蓄場所から避難所へのルートを決めているが、道路や河川の被災を想定し複数のルートも検討している。

避難者が安心できるように、その避難所が備蓄する場所として最適かどうか判断し確保を考えていく必要がある。

日曜日の実施を

問

特定検診は現在平日のみ行っているが、平日だと受けたくても受けられないとの声がある。

答

保健福祉部長

検診率のアップにもつながると思う日曜検診を実施できないか。

答

市民部長

日曜日の実施となると委託先及び医師・看護師等の確保や費用、実施場所等関係機関とも協議す



問

胸部レントゲン検診を以前のように個人病院で受けられないか。

答

保健福祉部長

国の指針により胸部レントゲン写真は2名以上の医師で判断することとされ、現状では困難と判断をした。

胸部の個別検診の再開に向け、今後も医師会や協力機関にお願いしていきたい。



石井 仁 議員

脱原発 首長会議に

問

ひとたび原子力発電所で大きな事故が起これば、その被害は、広範囲に放射性物質をばらまき永続的に被曝をさせ、地域経済も住民の暮らしも破壊してしまふ。

原発事故のもたらす危険性をなくす方法は、ただ一つ、原発そのものをなくすことしかないと思ふ。

「脱原発をめざす首長会議」が4月に設立された。市長も加わり、「脱原発」を紀の川市から発信・行動することを提案するが。

答 市長

一市長として、原発はない方がいいということ は承知をしている。

今、先に立って反対だ、ということではなく、国の動向を見ながら、県また県市長会として、方向を見きわめ、進めていきたい。

答 教育部長

給食食材の放射能検査の実施をしてはどうか。

24年度において県が実施する学校給食の食材の放射性物質測定の実施のモニタリング検査で、市内の一方所の調理場が採択される見通しである。

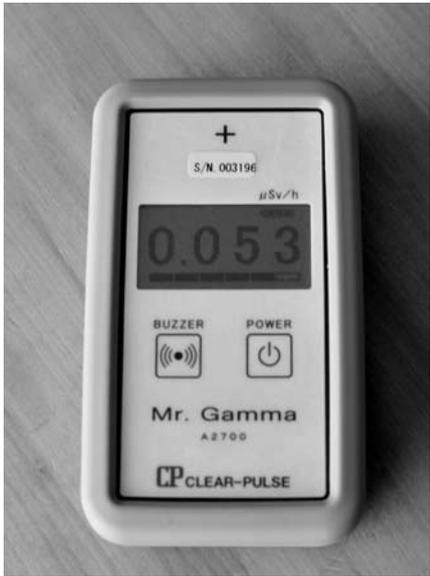
給食の 放射能検査を

問

学校や保育所の給食食材についても、基準値内のものが市場に流通しているという前提での「安全」は担保されているが、育ち盛りの子どもたちが口に入っているものが、どれだけの放射能を持っているのかまでは把握されていない。

答 保健福祉部長

測定器を購入するか、専門機関に測定を委託するかということ、調理現場でも調整しながら、測定できる方向で検討していきたい。



空間線量計



岡田 勉 議員

磁気ループの 設置を

問

補聴器をもっていない人は受信機を借りて、補聴器をつけている方はそのまま、役所窓口や、その他公共施設で、耳の遠いのを気にせず気軽に話ができ、用件をスムーズにすませることができ、磁気ループシステム（ヒヤリングループ）を設置できないか。また磁気ループを搭載した地域巡回バスの運行は。

答 総務部長

新庁舎の議場傍聴席には設置型の磁気ループシステムを、窓口カウンターには移動式の磁気ループシステムの採用を予定している。

その他公共施設や地域巡回バス等への設置につ

いては、有効なバリアフリー対策として今後の課題として認識している。

答 保健福祉部長

介護認定の申請時又は介護予防の基本チェックリストのチェック項目に、耳の状況等を追加して難聴の方が何人いるのか、またどの程度のことをしていくべきかを検討して前向きな対応をしていく。

答 市長

持ち運びできる機器については今後の課題として進めていけたらと思っている。

問

次期国体のあとに、全国障がい者スポーツ大会が開催されるが、それに向けての磁気ループシステムの設置は。

答 市長

市独自で設置するのが県から提供してもらえぬのか十分相談しながら整えていけたらと思つてい

安心して参加できる

問

介護予防教室や、社会福祉協議会が各地域で実施している高齢者ふれあいサロンでの活用できる携帯型磁気ループシステムがあるが購入できないか。



窓口カウンター磁気ループシステム



坂本 康隆 議員

問 地域と連帯する安全対策として、子ども見守り強化について、スクール

特に上野北歩道橋は、国交省より歩行者安全確保のためポストコーンを設置する旨回答を頂いている。

答 教育長
登下校の指導時や児童・保護者より危険であると連絡を受けた通学路については、4月末に、各小・中学校で実態調査を実施し、安全指導の実施状態の報告を取りまとめた。

問 通学路の危険箇所調査点検、特に歩道橋の点検は。

登下校の安全対策は

サポーターの増員は。

答 教育長
スクールサポーターは、現在420人であり、さらに各学校にて増員を推し進めて行きたい。

問 ドライバーへの交通安全の啓発強化の取組は。

答 総務部長
年4回、市内の各団体、警察、振興局と連携して運転者に安全運転の啓発をしている。

答 保育所・小学校の安全教室、高齢者に交通大学を主催し、また、本年度交通マップの作成を交通大学のカリキュラムとし



子どもの安全を守ろう（上野北歩道橋）

朝の登校時の放送は月に何回と決定はしていないが、市民への協力依頼と安全運転の心得ぐらいは放送すべきと思っ

ぼくたちの安全を見守って…

て計画している。

問 朝の登校時間帯の放送は。

答 教育部長
登校時の交通事故の現状を踏まえ関係機関と協議し登校時間にも放送できないか検討したい。

答 市長
子どもの安全について本当に危険が多い。運転者も子どもも注意してほしい。

議会を傍聴してみませんか

市議会の定例会は、3・6・9・12月の年4回開催されています。

市議会では、市民の皆さんの生活に直結した重要な問題が審議されています。

市民の皆さんが選んだ議員の活動状況や、市政の内容を知るためにもぜひ議会の傍聴にお越しください。

日程など、詳しいことは、議会事務局までお問い合わせください。(0736-77-0892)



【傍聴手続き】

傍聴を希望される方は、当日受付で住所・氏名・年齢を記入していただき、入場してください。

(本会議傍聴定員は、30人)

【受付場所】

本会議

本庁舎4階議会事務局

総務文教常任委員会

6月19日、3項目について所管事務調査を行いました。

まず、「桃源郷運動公園の利用状況」について、県内の同様の施設との比較なども交えて説明を受けました。委員からは、「施設のPRが不足していること、利用料金が高いこと、民間活力の利用を考えること」などが指摘されました。

行政側からは、「各学校に営業に回るなど利用の促進に努めていきたい」との回答がありました。

次に、「給食センター建設の進捗状況」について、「今後、基本構想、基本設計、実施設計を平成25年2月末まで取り組んでいく」との説明を受けました。

る。

歳出については、生活保護費などの社会福祉関係費などは増加している。歳入は減少、歳出は増加という傾向にあるとの説明を受けました。

さらに、交付税については、現在は合併による算定替えで、通常額より28億円多く交付されているが、平成28年度から段階的に減少し、平成33年度には本来の額になる。

また、合併特例債については、借入れができる平成27年度までに、限度額の84.6%まで借入れる計画となっているとのことでした。

交付税についても計画よりも減ることも想定し、健全で持続可能な財政運営が行われているか、より厳しく監視していく必要があると感じました。

厚生常任委員会



民営化された名手保育園を視察

6月20日、安楽川保育所の民営化スケジュールの調査と本年4月に民営化された名手保育園についての視察研修を行いました。

安楽川保育所は、平成25年度に民営化されるため、現在移管先法人の選定が行なわれています。6月6日に開催された法人への説明会には、13法人が参加されたそうです。

今後は、正式に受付を行ない、移管先法人選考委員会による書類審査、現地審査、聴き取り調査などが行なわれ、本年9月中旬に移管先法人が決定

されます。

次に本年4月に民営化された名手保育園（社会福祉法人 陸美会）を視察しました。

園長に子どもたちの様子を尋ねると「子どもたちも新しい保育スタッフに慣れて、毎日楽しく過ごしてくれていますよ。」と返事をいただきました。

施設内を見学させてもらいましたが、教室のあちらこちらから、子どもたちが明るく元気に「こんにちは」と挨拶してくれましたので、こちらが元気をもらった研修になりました。

産業建設常任委員会

6月21日、京奈和自動車道の進捗状況について所管事務調査を行いました。

京奈和自動車道は、京都府を起点とし、奈良県を抜けて和歌山市に至る延長120kmの高規格幹線道路です。そのうち、紀北東道路は、高野口ICから紀の川市（仮称）打田ICに至る16.9kmの道路で、平成18年度に着工され、平成24年4月には、高野口ICから、紀北かつらぎICまで開通しています。

今回は、紀北東道路の

内、（仮称）粉河・那賀ICと（仮称）打田ICの建設現場で国土交通省近畿地方整備局の担当者から説明を受けました。

（仮称）粉河・那賀ICの建設現場では、最終処分場の掘削を伴うため、大型の重機を使って廃棄物混じりの土を分別し、汚染土調査を行っていました。

なお、平成25年度には、紀北かつらぎICから（仮称）打田ICまで開通する予定です。



（仮称）粉河・那賀ICにて



健康運動指導士による運動指導

5月16日～18日の3日間、秋田県横手市と岩手県北上市・陸前高田市へ視察研修を行いました。横手市では、「健康の駅よこて」と「心の健康づくり」について研修を受けました。健康の駅事業は、近代的トレーニングセンター（大規模駅）から、町単位（中規模駅）、字単位（小規模駅）の集会所などに運動スタッフが向き、住民に健康管理や家庭でもできる運動などの啓発を行なう事業でした。また、秋田県は14年連続自殺率の高い県ということもあり、全県的に心の健康づくりに取り組んでいます。

命の尊さを分かってもらうために、市民への意識調査を行なったたり、自殺予防講演会を開催したりしています。心身の健康が言われている現代社会において、本市も今まで以上に取り組む必要性を感じました。北上市では、「きたかみ震災復興ステーション」について研修を受けました。このステーションは、震災により避難してきた方に復興情報を提供したり、交流の場を提供したりするために、市や社会福祉協議会、NPOが中心となり開設したものです。沿岸部は、いまだに復興のめどが立っていないなか、同じ県民として、これからも積極的・継続的に被災地の支援を行なっていくそうです。陸前高田市では、災害時要援護者の生活状況について研修を受けました。



陸前高田市役所仮庁舎

現在は徐々に復旧しているが、いまだ仮設住宅での生活を余儀なくされている方も多く、最近では心の病の相談ケースが増えているそうです。以前本市に来てくださったご縁で訪問しましたが、視察を受け入れてくださった方から「被災地のことを忘れないでください。この状況を実際見てください。地元へ持ち帰り皆さんに話していただくことが、私たちへの支援になります。」との言葉が強く胸をうちました。

公務員倫理の向上と収賄事件再発防止等特別委員会委員長報告

本特別委員会は昨年12月2日第4回定例会において、紀の川市で発生した収賄事件について検証し、行政事務の適正化を旨とし現状を調査研究するとともに倫理の向上について市の取り組み状況を調査研究することを目的に設置されましたが、6月28日第2回定例会最終日に委員長から調査結果報告があり、同日本特別委員会は解散しました。

調査報告の主な内容はずきのとおりです。

●調査研究の経緯と概要
委員会は、昨年12月6日に第1回目を開催し、その後本年6月13日までの間、あわせて5回開催しました。

その中で、事件の背景となった産業廃棄物処理施設の許認可事務の流れについて担当部署から説明を聴取、また今後の綱紀粛正に向け、職員の倫理向上について文書化してはどうかとの提言も行ない、その内容についても協議した。

市当局においては、本年4月1日から職員の法令遵守を推進するため監察を設置し、本特別委員会の提言を受け、紀の川市職員倫理規則を制定し、今後も全職員を対象とした研修を実施するとの報告を受けた。

●まとめ
堂本元副市長がかかわった産業廃棄物処理施設の許認可事務については、「法を犯す事実はなかったと判断している」と市当局の報告もあり、市の意見書内容への関与はなかったものと判断する。しかし、今回の事件は、職員を指導監督すべき特別職である副市長が起

した事件であることを考えると、非常に由々しき問題である。市当局は再発防止に向け、職員倫理の向上及び益々の綱紀粛正を目的に監察を設置するとともに職員倫理規則の制定など、再発防止に努めていることは評価するが、世論は議会議員を含め公務員に対して、より厳しい倫理意識を求めていることを認識しなければなら

ない。市民の負託を受け、特別職の副市長をはじめ市当局を監視する立場にある市議会として、このような不祥事を防げなかったことは、監視機関としての機能を果たせなかったものと反省し、今後は市議会の機能を再認識し、その使命を十分に果たして行かなければならない。



おめでとうございます。



全国市議会議長会 一般表彰を受賞

平成24年5月23日（水）に東京都の日比谷公会堂で開催されました第88回全国市議会議長会定期総会において、

上野 健 議員（正副議長在任4年以上）が表彰されました。



和歌山県市議会議長会

平成24年5月14日（月）和歌山県市議会議長会第1回総会において、永年の議員活動に対し、次の方々が表彰されました。

特別表彰

上野 健 議員（正副議長在任4年以上）

一般表彰

高田 英亮 議員（議員在任10年以上）

竹村 広明 議員（議員在任10年以上）

西川 泰弘 議員（議員在任10年以上）

村垣 正造 議員（議員在任10年以上）

（※町議会议員在任期間は1 / 3年として計算）

めざせグランプリ

7月17・18日の両日、森田委員が編集委員会代表として、地域密着で親まれる広報紙づくりを学ぶため、大阪市北区の毎日インテシオにて「第25回近畿市町村広報紙セミナー（毎日新聞社主催）」を受講しました。



近畿圏内の自治体等、およそ60団体から80人程が参加し、編集作成センター部長代理や写真部副部长、作家等が講師となり、取材の仕方や見出しの付け方、読者にわかりやすい文章や写真の撮り方等について実践で学びました。

秋には、セミナー参加団体の広報紙を対象としたコンクールが開催されるため、参加者は熱心にメモを取るなど聴き入っていました。

私たち編集委員も、これからもなお一層努力し、見やすく、読みやすい議会広報をめざして頑張っていきますので、ご期待ください。

韓国姉妹都市 ソギポ 西帰浦市訪問団 来市

姉妹都市提携5周年に伴い、4月21日に、西帰浦市長をはじめとする西帰浦市訪問団10名が来市され、歓迎式典や記念植樹が行われました。

また、めっけもん広場や貴志川町西山の農家などを見学され、本市の農業について研修をされました。



金 西帰浦市長と西川市議会議員



めっけもん広場を視察

暑中お見舞い申し上げます

公職選挙法等の趣旨に基づき、暑中見舞いなどのあいさつ状を廃止しておりますので、紙上をもってごあいさつにかえさせていただきます。

市民皆様のご健勝をお祈りいたします。

紀の川市議会議員一同

虚礼廃止にご理解・ご協力を！

市議会では、公職選挙法等に基づき、虚礼を廃止した議員活動を行っています。具体的には、次のような項目です。市民の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

- ◆冠婚葬祭、慶事、見舞いおよび各種行事等における寄付行為の禁止
(本人が出席する結婚式の祝儀、香典等は除く)
- ◆あいさつ状の禁止
- ◆議員名、議員団体および会派名による年賀・暑中見舞い等の各種広告の禁止
- ◆中元や歳暮の贈答はしない
- ◆お祝い・おくやみ電報等を出さない(親戚・友人は除く)



人間! 特集

こ く ほう
誇・功・宝さん

誇=自慢 功=功績 宝=貴重

このまちで

受けた感動を

残したい

日本画家

満田 慧峰さん

(打田在住)

自然が通りぬける家に住む

——ここに住むようになったきっかけは？

今までいろいろな家に住みましたが、ここが一番集中できますね。

私は非常に誘惑に弱い人間ですから環境も常に保っておかないと、そつしないと絵が出来上がらないんです。この家は門があって、風が通りぬけているし、虫も勝手に出入りし放題で、これはほんまに源氏物語の世界だなと思ったのがここへ住むようになったきっかけです。

日本とイタリアを
行ったり来たり

——今まで外国に住まれたことは？

28歳の時から36年間、日本で半年、イタリアで半年の暮らしをしていました。セリーナというミラノの隣の町で、普段は2千人くらいの人口が6月から9月には6万人にもなるスイスの国境近くのリゾート地に住んでいました。今でもイタリアにたくさんの友達がいいます。阪神大震災の時もすぐにミラノから「大丈夫か」とファックスや電話がありました。

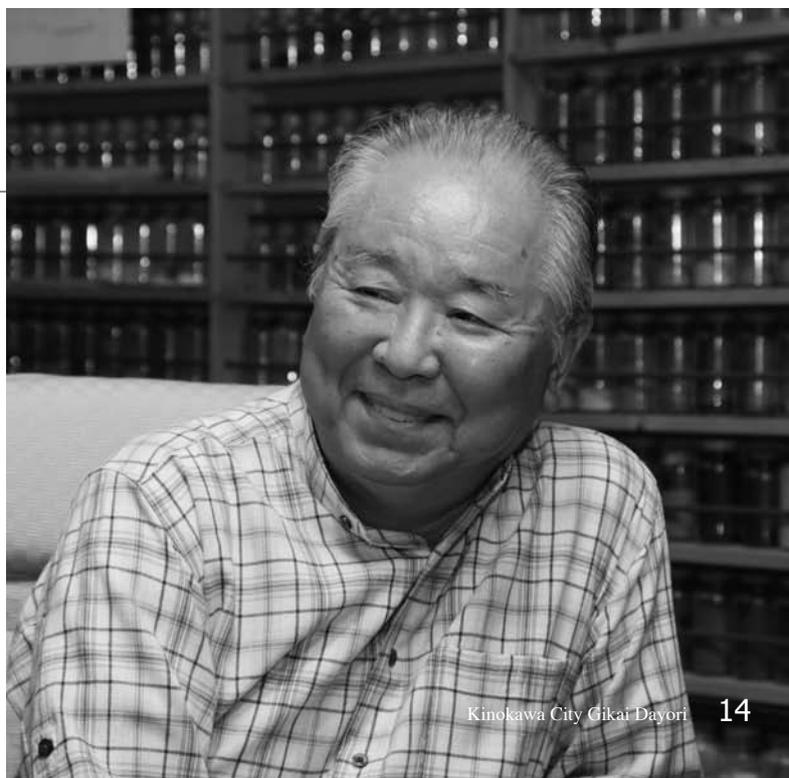
プロフィール

満田 慧峰 (みつだ・せいおう)

昭和14年(1939年)生まれ 大阪府吹田市出身
師父・天民について日本画を学び、イタリア遊学中にはカッサーノ市から銀の名誉賞を受けるなど国際的に活躍。

主な作品

ヴァチカン市国ヴァチカン美術館「聖画」
能勢関西身延・無漏山真如寺客殿五十四面襖絵「六波羅蜜」
日蓮宗総本山・身延山久遠寺「明星下誓願」
鎮国寺「仁王経八菩薩図」
小倉日蓮宗真浄寺内陣襖絵八面「観音八図」
小倉日蓮宗真浄寺別院藤松清正公堂天井画「龍神図」
鳥取県日蓮宗法要山解脱寺天井画「九頭龍神図」



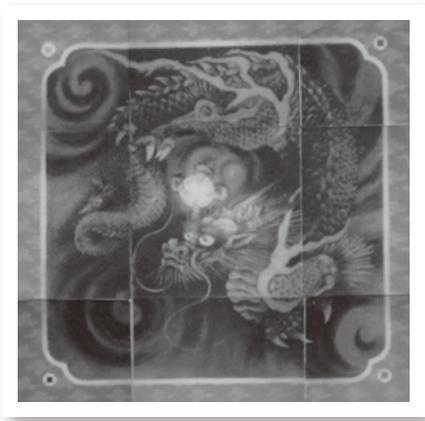
父が描いているのを見ることが楽しかったです

—小さいときから日本画家になりたいと思っていましたか？

8歳くらいから日本画家である父の仕事が終わったら、絵の具の皿や筆を洗ったりしていました。日本画の絵の具は粉の状態と練った状態、そしてその色の下の色にかぶった状態と色が変わっていきます。色は面白いもんじゃないかと思っていましたし、筆を見た時はどこまでその絵の具がついているのかが見るのが楽しかったです。

美大へ行きたいと思っていましたが、姉の結婚とちょうど重なり、浪人するよりこのまま絵を描いていこうと、その時はじめて絵描きになるうと思いました。

父が絵を描いている時、話をしている時の姿を見てこんなふうになりたいなと思いました。父とは、けんかもしましたが、ローマ法皇に献上した絵も一緒に制作しましたし、本当に



小倉日蓮宗真浄寺別院天井画「龍神図」

「親父と一緒に生きたな」という思いと絵を描くという素晴らしい財産をもらいました。

とにかくのめり込むしかないんです

—作品を作るにあたって心がけていることは？
いろんな世の中の出来事は私にとっては邪魔なんです。音楽を聴きながら精神を集中させていく、仏画を描くときは読経を聴きながらとしますね。

風景を描こうとしたら、明け方から夕方まで日が落ちるまでそこに座ってます。見ることに、色がどんどん変化していきますから。

安楽川の桃を絵巻にしたい

—紀の川市はどんな町だと思われませんか？

紀の川市へは隠居のつもりで来たのですが、紀の川市は歴史の幅とドラマの奥行きがものすごく深いんですね。

だから、紀の川市に来てから広報「紀の川」にも掲載された龍門山縁起絵巻を描き上げて、今は桃の取材をしています。

最初は桃の花を描きたくて桃源郷へ行ったのですが、あの一面の桃を見てイメージが大きくなり膨らんで、絵巻にもしたいと思うようになって、桃についていろいろ調べたりして毎日桃のことばかり考えて生活しています。

紀の川市への思い

—満田さんにとって紀の川市とは？

子どもたちも皆独立し、家内と二人でぼちぼちと家で時間を楽しんできていきたいなと思って紀の川市に来ましたが、歴史や文化、自然の豊かさにもあれもこれも描きたいと思うようになってきて、えらいことになりそうです。

私はこの紀の川市でうけた感動を残したいと思っています。

そういつたひとつひとつを拾い上げて絵に残しておいたら、次の世代の人たちがそれを伝統としてしょっていける素材がそこに残りますから。



「家内と二人でぼちぼちと家で時間を楽しんできていきたいなと思っていたのだが、えらいことになりそうです」と、笑って話してくれました。



花いっぱい運動 (名手川)



七夕まつり (ながやま保育園)



力強く 選手宣誓 (第7回紀の川市長旗少年野球大会)



みんなで田植え (池田小学校)



暑さの中での熱戦 (第16回貴志川町ホテルカップ少年サッカー)



しゃぼん玉あそび (こばと保育所)

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。
今年の5月に金環日食、6月には金星の目面通過という天体ショーがあり魅了されました。

一方、国会の方では社会保障と税の一体改革法案が賛成多数で可決され、その結果、民主党が分裂する事態となりました。国会運営においては、

党利党略ではなく、国民のための政策議論をしていただきたいものです。地方自治体においても

財政は厳しいですが、住民福祉向上のためにしっかりと議論をしていきたいと思えます。

議会だよりも市民の皆様にはわかりやすい紙面づくりに頑張っております。皆様のご意見をお待ちしています。

(N・T)